

2022年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	70
㎡当たり籾数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 5/15を中心とした田植えと70株植の推進
- 溝掘りと田植後4週間までの中干し
- 適期に適正な防除で病虫害を防止
- 生育時期に応じた水管理の徹底
- 適期収穫

作業日程の目安	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月										
生育ステージ		育苗期	5/15 田植	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	7/11 幼穂形成期	穂ばらみ期	8/4	登熟期	9/12	成熟期	9/12				
作業内容		浸種(4/17) 播種(4/26) 搬出(4/29)	田植(5/15)	除草剤散布	軽い中干し(6/3-5)	溝掘り(6/10-15)	中干し(6/20頃)	加里散布(7月上旬)	一斉草刈り(7/19)	穂肥①(7/26)	穂肥②(8/4)	随時防除	出穂期(8/4)	防除①	防除②	落水(9/5-7)	刈取り(9/12)
草刈回数			1回目(田植期)	2回目	3回目(県下一斉)	4回目	5回目①	①又は②	5回目②								
水管理			浅水管理(水温を上げる)	溝掘り・中干し(初期茎数の確保)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)	中干し(適期に遅れず)
管理のポイント			田植後は5月15日を中心	溝掘りは確実に	中干しは適期に開始	草刈りの徹底	適正な穂肥	出穂後20日間の湛水管理	基本防除2回の徹底	収穫までの水管理	適期収穫	適正な乾燥調製	土づくり				

水管理の目安

- 生育初期の浅水管理
- 田植後4週間までの中干し
- 中干し後の間断かん水
- 幼穂形成期後の飽水管理
- 出穂後20日間の湛水管理
- 収穫5~7日前までの間断かん水

水管理の目安

- 浅水管理で水温を上げる
- 溝掘り・中干し
- 間断かん水
- 飽水管理
- 出穂後20日間の湛水管理
- 間断かん水

水管理の目安

- 浅水管理(3cm程度)
- 溝掘り
- 中干し
- 間断かん水
- 飽水管理(常時湛水状態を保つ)
- 湛水管理(出穂後20日間は田面を出さない)
- 間断かん水(田面の足跡に水が残る程度)

水管理の目安

- 時々水を入れ替える
- こまめに入水する

水管理の目安

- 3cmの湛水状態
- 収穫5~7日前までの間断かん水で登熟向上・品質向上

水管理の目安

- 足はほぼ沈まない
- 間断かん水

水管理の目安

- しっかり湛水だよ!
- 3cmの湛水状態

水管理の目安

- 足はほぼ沈まない
- 間断かん水

水管理の目安

- 間断かん水の効果
- ①土壌に酸素と水を供給して根の発達を促す
- ②肥料持ちを良好にする

水管理の目安

- 湛水管理の効果
- ①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
- ②肥料持ちを良好にする

水管理の目安

- 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。
- 土づくり資材や堆肥を施用する。
- 19mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。
- 水分14.5~15.0%に仕上げる。
- 粗糲化率85~90%頃に刈り取る。
- 高温年は80%から5%。
- フェーン時はあらかじめ入水する。
- 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。

水管理の目安

- 刈取時期判定の目安
- 籾の熟色で刈取適期を判定
- 株内の平均的な熟色を見る
- (粗糲化率85~90%)
- 青緑色の2次枝梗が黄化した時

水管理の目安

- 土づくり
- 秋耕しに努める、練りすぎに注意する。
- ゆつくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。
- 代かきは、均等に努め、練りすぎに注意する。
- 健康な育苗
- 搬出直後から換気の徹底。
- 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 耕起・代かき
- 健康な育苗
- 搬出直後から換気の徹底。
- 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 土づくり
- 秋耕しに努める、練りすぎに注意する。
- ゆつくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。
- 代かきは、均等に努め、練りすぎに注意する。
- 健康な育苗
- 搬出直後から換気の徹底。
- 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。

4月25日を中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心とする。

○育苗日数は19日以内を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	8/1頃
4/17頃	4/26頃	5/15	8/4頃
4/25頃	5/3頃	5/20	8/7頃

育苗日数が19日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は70株/坪

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○田植後1か月(8葉期頃)は最も根が伸びる時期です。この時期に中干しをすることで根の伸長を促進します。

○中干しの効果を高めるため中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう

適期中干し

- 葉が直立
- 茎が太い
- 根が多い

中干し未実施

- 下葉が枯れる
- 茎が細い
- 根が少ない

中干しの有無による稲の姿

乗用管理機での溝掘り

適期で適正な防除で被害を防止!!

病害虫防除体系

【育苗基本防除】・苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアトスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	白葉枯病、もみ枯病、イネネズミ、イネドクモシ、ウンカ類、ツマグラヨコバエ、イネヒメハモグリバエ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、いもち病
ブイゲットバディート粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	いもち病、白葉枯病、もみ枯病、イネネズミ、イネドクモシ、ニカメイチュウ、ツマグラヨコバエ、イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イナゴ類
エパーゴルフワイド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	穂枯れ(こま葉枯病)、白葉枯病、内穎病、イネドクモシ、イネネズミ、ウンカ類、ツマグラヨコバエ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、いもち病、紋枯病

※紋枯病の常発地の場合

【本田基本防除】・粉剤、液剤体系

防除時期	随時防除		基本防除	
	出穂10日前頃	出穂後(随時)	穂揃期	傾穂期
粉剤	バリダシン粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	バリダゾール粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	バリダシン液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) M.R. ジョーカー-EW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) キラップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象病害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグラヨコバエ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグラヨコバエ

※各薬剤とも、使用時期別に、上記以外の対象病害虫の登録があります。

除草剤散布は遅れずに

雑草の発生が少ない圃場：一発処理

薬剤名	使用時期
カチボシ・1キロ粒剤51・Lジャンボ	移植時~ノビエ2.5葉期
アピログロウMX・1キロ粒剤・ジャンボ	移植後3~12日~ノビエ2.5葉期
エンペラー・1キロ粒剤・豆つぶ250	1キロ粒剤: 移植時~ノビエ3.0葉期 豆つぶ250: 移植直後~ノビエ3.0葉期

雑草が残った場合

ノビエが残った場合

クリンチャー 1キロ粒剤

使用時期: 1kg/10a 施用 豆つぶ250 施用 移植後7日~ノビエ4.0葉期
1.5kg/10a 施用 移植後25日~ノビエ5.0葉期

雑草の発生が多い圃場：体系処理

体系	薬剤名	使用時期
体系①: ノビエ対策	マーシット・1キロ粒剤	移植後3~5日~ノビエ1.0葉期
体系②: ホタルイ対策	ピラクロン・1キロ粒剤	移植時同時使用
体系③: 初期剤+中期剤	ピラクロン・1キロ粒剤	移植時同時使用
	トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日~ノビエ5.0葉期
	広葉雑草が残った場合	
	パサグラン粒剤	使用時期: 移植後15~55日
	ノビエ・広葉雑草どちらにも効果あり	
	トドメバSMF乳剤	使用時期: 移植後15日~ノビエ6.0葉期
	いずれか1剤	
	ワイドショット・1キロ粒剤	使用時期: 移植後15日~ノビエ4.0葉期
	サンパンチ・1キロ粒剤	使用時期: 移植後15~30日~ノビエ3.0葉期

※赤字の薬剤は令和4年度新規採用薬剤

土壌に応じた適正な施肥量

コシヒカリの基肥施用基準 生育量を確保するために、基肥は基準量を確認して施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)			
	<標準タイプ>	<省カタイプ>	基肥		穂肥	
	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
砂壤土 壤土	Jコート コシヒカリ1号	35	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	41	基肥206	10 13
						10 12
半湿田 黒ボク土	Jコート コシヒカリ1号	30	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号	35	25	10 12
						10 10
粘質土	Jコート コシヒカリ2号	27	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号	32	23	10 10

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!